

No.

2023 年度 国語 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	言語文化	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	1年 探究コース 5組
使用教材	『高等学校 言語文化』『言語文化 学習課題集』『体系古典文法 九訂版』『古典文法 要点整理ノート』『カラー版 新国語便覧』『高等学校 現代の国語』						

目 標	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して、他者や社会と関わろうとする態度を養うことができる。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ステップ 3 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についてよく理解し、得られた知識を活用できている。また、文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化についてよく理解し、さらに本文以外の意味や用法についても知識を深めている。	古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを十分に把握している。また、文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方について根拠をもって説明できている。	積極的に古典作品を読み味わい、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
	ステップ 2 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についてある程度理解できている。文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化について理解している。	古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを把握している。また、作品の内容や展開を捉え、作品に表れているものの見方や考え方を理解できている。	積極的に古典作品を読み味わい、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などを読み取り、考えたことを伝え合おうとしているが、不十分なところがある。
	ステップ 1 我が国の言語文化に特徴的な語句・語彙についての理解に乏しい。文語のきまりや古典特有の表現、時間の経過などによる言葉の変化についての理解に乏しい。	千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを把握していない。また、作品の内容や展開を捉えることができていない。	積極的に古典作品を読み味わう姿勢や、作品に表れた登場人物の心情や、作者の批評・教訓・感動などの理解に乏しいため、作品に対する自分の考えを持っていない。
評価方法	定期試験、授業時の観察、音読課題テスト、小テスト	定期試験、授業時の観察、音読課題テスト、小テスト	授業に取り組む姿勢や意欲 課題等の取り組み 自己評価シート

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA、B、Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

授業の形態、方法

一斉授業の他に、個人・集団での発表、話し合いなどを行います。自分の考えを持ち、ほかの生徒と積極的に話し合いを行ってください。また、「漢文音読」を適宜行います。こちらも評価に入りますので、指定された時期に行ってください。

担当者より

古典は古くて新しい文章です。伝統的な価値観に触れながら、自分自身のものの考え方を深め豊かにしていきたいと思います。必ず予習をした上で授業に臨みましょう。古典は「予習」が勝負です。自分で分かったところと分からないところを「分ける」ことが「予習＝学習」です。自分の身になるように予習してください。復習も大切です。音読を繰り返すことで、古文特有のリズムや言い回しを体得できます。古文単語や文法事項は繰り返し繰り返し学習して確実に身につけて下さい。1年生の古文の学習で身に付いたことが3年間の土台になります。文学的な文章を読む土台を作り、先人たちから受け継がれてきた古典を味わいましょう。

学習計画

月	単 元 名	予定時数	学 習 の 内 容 と ね ら い	実施時数
4	授業ガイダンス 「児のそら寝」 歴史的仮名遣い 辞書の引き方 品詞の理解	6	すべての単元を通じて、文章の要旨を理解し、その意見について自分の考えを書いたり話したりすることで他者と言葉を通じて伝え合う多様な言語活動を展開する。また、日本語の特性を理解し、言葉を通して日本文化に触れながら、当時の人々と私たちとの考え方の差異を理解し、表現できるようにする。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・時間の経過による「児」の心理を理解する。 ・歴史的仮名遣いを使って本文を読むことができる。 ・古典文法における品詞の分類の仕方を学ぶ。	
5	動詞の理解	4	・動詞の活用形や活用の種類を学び、自分で動詞を見分けられるようにする。 ・文章内で使用される動詞の活用形を学び、今後学ぶ助動詞への理解につなげる。	
	<前期中間試験Ⅰ>	1		
6	「検非違使忠明」 形容詞・形容動詞の理解 「夢十夜」	8	・古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形の面白さを読み取る。 ・説話から良秀の特異な言動を読み取り、内容や展開を的確に捉える。 ・形容詞・形容動詞の活用形や活用の種類を学び、自分で形容詞・形容動詞を見分けられるようにする。	
	<前期中間試験Ⅱ>	1	・「夢」という非日常性を持った世界において、自分は何を根拠の判断としているのかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・話の面白さを理解し、その内容を相手に伝えられるようにする。	
7・8	『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」 ※夏期講習(5) 助動詞の学習 ※漢文音読①	5	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・用言の復習をしながら、活用の種類や活用形を見分けられるようにする。 ・基本的な助動詞を学び、その意味や活用の仕方を覚える。	
		2		
9	『徒然草』 「ある人弓射ることを習ふに」	5	・思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・用言の復習をしながら、活用の種類や活用形を見分けられるようにする。 ・基本的な助動詞を学び、その意味や活用の仕方、識別の方法を覚える。	
	<前期期末試験Ⅱ>	1		
10	漢文の基礎 「漢文の構造」「訓読の仕方」 「置き字」「返り点」「書き下し文」 「再読文字」・漢和辞典の引き方 「漁父の利」 漢文音読③	6	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・「漢文の構造」「返り点」「書き下し文」といった基本事項を身に付ける。 ・漢文の読みに慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・故事成語の意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめる。	
11	故事成語 「狐借虎威」・「雑説」 漢文音読④ 11月模試対策	8	・漢文の読みに慣れ、本文の論理展開と構成を理解する。 ・比喩(隠喩)表現の表す意味を理解する。	
	<前期中間試験>	1	・11月模試に向けて、文学的文章の演習を行う。	
12	『羅生門』 漢文音読⑤	6	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ・『羅生門』のもとになった文章を読み、その違いを理解し、表現することができる。	
	『伊勢物語』 「芥川」「筒井筒」 ※冬期特別授業(5)	2	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・絵画資料と照らし合わせながら、解釈を深める。 ・助動詞を生かした現代語訳ができるようにする。	
1	『伊勢物語』 「東下り」	5	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・絵画資料と照らし合わせながら、解釈を深める。 ・助動詞を生かした現代語訳ができるようにする。 ・和歌の修辞技法を学び、解釈を深める。	
2・3	『土佐日記』 「門出」 漢文音読⑥	4	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・1年で学んだ文法事項を駆使して、文章を分析的に読めるようにする。	
	<後期期末試験> ※春期特別授業(4) 「臥薪嘗胆」		・長めの漢文を扱うことで、漢文に慣れるようにする。 ・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確にとらえる。	
合計時数		65		